

今日から使える!

# Classroom English

## Lesson 5

### 活動の指示の表現③

この夏に北は仙台から南は福岡まで、全国で小学校教員向け英語力・指導力向上セミナーを開催しました。参加者の中には、来年度からの新しい教科書の指導に不安を感じている方も少なくありませんでした。

今年度使用中の文部科学省作成の補助教材『Let's Try!』や『We Can!』の活動で使っている指示英語は、新しい教科書の指導にも役立ちます。『Let's Try!』や『We Can!』の主な活動には、「Let's Listen(聞いてみよう)」「Let's Watch and Think(映像を見て、考えてみよう)」「Let's Sing(英語で歌おう)」「Let's Play(ゲームをしよう)」などがありますが、活動のタイトルをそのまま指示に使える便利です。

来年度からの指導でも、小学校外国語・外国語活動は、聞いて慣れ親しむものを中心であることに変わりはありません。今回は、さまざまな聞く活動に使える表現を紹介します。「Let's listen.」だけで終わらずに、「聞いて何をするのか」を具体的に伝える単語をおさえて、聞き取りの活動を進めやすくしましょう。

### Listen and connect.

聞いて線を結びましょう。

「誰がどの色が好きか聞いて、線で結ぼう」といった、聞いて線を引く活動の指示です。「つなぐ」という意味の単語connectを使いますが、コネクトというカタカナ読みにならないように気をつけましょう。ポイントは、「ネ」を強く読むことです。「線を引く」というdraw a line(複数はlines)という表現も使えます。いずれにしても、線で結ぶことが児童に伝わるように、ジェスチャーをつけて指示を出す練習をしておきましょう。

### Listen and write.

聞いて書きましょう。

聞いて名前を書く、番号を書くといった活動で使える表現です。具体的に何を書かまで伝えるようにすると、次のように表現できます。「Listen and write a friend's name.」「Listen and write the number.」表に書き込むときは、「Write the number in the chart.」□の中に書き込むときは、「Write the number in the box.」と伝えることができます。前置詞(in/on/atなど)や冠詞(a/an/the)などが難しいと感じるときに便利な単語が、「ここに」を表すhereです。書く箇所を指示しながら「Write the number here.」と伝えましょう。

菅井幸子 すがい さちこ

株式会社イーオン 東京本社法人部 学校教育課 教務コーディネーター

岩手県生まれ。大学卒業後、イーオン入社。

2007年より教務課トレーナーとしてイーオンスクールの教師育成に従事。15年に学校教育課の立ち上げに参加し、全国の教育委員会や学校で、教員向けの英語指導法や英語力アップの研修などを行っている。

### Write what you learned.

わかったことを書きなさい。

高学年の聞く活動で多く出てくるのが、「わかったことを書く」です。「わかる」と聞くとunderstandを思い浮かべる人もいますが、「聞いて、何かを知る」という意味ではlearnを使いましょう。ここでのwhatは、「何」を表す疑問詞ではなく、後ろのyou learnedまでを含めて「あなたがわかったこと」という意味です。「Show me what you wrote.」(書いたものを見せてください。)  
「Share what you talked about.」(話し合ったことをシェアしてください。)などのバリエーションもぜひ活用してください。

### Listen and draw pictures.

聞いて絵を描きましょう。

漢字でも、「書く」と「描く」とは表記が違うように、英語でも単語が異なります。「線を引く」で紹介したdrawが「描く」に当たります。天気絵を描くのであれば、「Draw a weather picture.」といった具合です。○や△も、日本語では「書き」ますが、英語ではdrawを使います。それぞれ次のように表せます。「Draw a circle.」「Draw a triangle.」drawはカタカナ読みしがちですが、drの部分は「ド」よりは「ジュ」の音に近づけると、より自然な発音になりますよ。

### What did you hear?

何が聞こえましたか。

聞く前の指示はlistenなのに、聞いた後の質問はhearです。この二つの単語の違いは、簡単に言うとlistenは「しっかり聞く」、hearは「聞こえる」です。聞き取りの活動では、児童によって何が聞こえたかは違いますね。なので、この表現を使って、児童にどんな言葉が聞こえたかを尋ねましょう。whatなどの疑問詞で始まる質問は、文の最後のイントネーションを下げてください。whatとhearの部分強く読むと英語らしいイントネーションになりますよ。

#### ★ここがポイント!!

皆さんが経験したことのあるリスニング活動は、一度だけ聞いて答えを確認するようなものが多かったのではないのでしょうか。小学校でのリスニング活動は、「何度も聞く」ことを前提としていますね。「What did you hear?」と児童に尋ねたら、聞こえた単語を何かしら答えてくれるでしょう。それが正しくても違っていても、「Are you sure?」(ほんとかな?)などと声掛けをして、答えの確認のために再度音声を聞かせる指示が、「Listen again and check your answers.」です。